



図書館員のコミュニティツールとしての SNSの可能性～Twitter,facebook,LINEの試用～

2012年-2013年 L-ラーニング学習支援システム研究分科会研究報告

2013年12月12日（木）

私立大学図書館協会東地区研究部 2013年度研究分科会報告大会

佐藤 恵（東北学院大学中央図書館）
澁田 勝（獨協大学図書館）

Index

1. はじめに

- 1-1. L-ラーニングとは
- 1-2. 活動目的
- 1-3. 研究分科会設立背景

2. これまでの研究活動

- 2-1. 第1期（第1フェーズ）
 - 2-1-2. 第1期（第2フェーズ）
- 2-2. 第2期
- 2-3. 第3期

3. 今期の研究内容

- 3-1. 前期までの整理
- 3-2. 今期のテーマ設定の背景
- 3-3. テーマ設定
- 3-4. 情報収集・共有・発信ツールの検討
- 3-5. アカウント作成
- 3-6. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討
- 3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究
- 3-8. Facebook, Twitter, LINEの特徴
- 3-9. 大学・図書館におけるSNSの活用例
- 3-10. 新たなコミュニティのかたち
- 3-11. 課題

4. 今後の展望 ～大学図書館員のコミュニティづくりへのSNSの活用～

- 4-1. 議論と試行から見えてきたこと
- 4-2. コミュニティから、一歩前へ！



1. はじめに

1. はじめに

1-1. L-ラーニングとは

- e-ラーニング (WBT=Web-Based Training)を利用したオンライン教育の手法をヒントに考え出した造語。図書館員のリテラシーやスキルアップのための自己学習をあらわす。

L-ラーニングの“L”はLibrary Librarian Literacyをイメージ

1-2. 活動目的

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築並びに評価、分析を行う

1. はじめに

1 - 3. 研究分科会設立背景

平成9年～	大学図書館員のためのML内で「図書館員の専門性について」議論
平成10年5月～11年2月	「資格試験」と「専門性評価試験」についてアンケートを実施（結果公表）
平成14年6月	「Project ALTRE」の活動を開始
平成15年3月17日	模擬試験テストページをMLメンバーに公開
平成15年5月1日	プロジェクト名を「LL Project」に変更、一般公開の開始（50問）
平成15年11月1日	第2期の問題を公開（50問）
平成16年4月1日	「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」を発足

*第1期 - Project ALTRE （有志7名）

*第2期 - LL Project （有志10名）

*分科会発足時 - 正会員7名



2. これまでの研究活動

2. これまでの研究活動

2-1. 第1期 (第1フェーズ)

L-ラーニング・オンライン模擬試験ホームページの問題作成・評価・分析
http://www.l-learning.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?item_id=63

[模擬試験TOP] [成績一覧(Top50)]

L-Learning

Since 2003

L-ラーニング・オンライン模擬試験ホームページ

このページは大学図書館員がスキルアップを目指すための試験ページです。
また一般の方に大学図書館司書の仕事を知っていただくページでもあります。

⚠ 試験の前に必ずこちらをご覧ください ⚠

では、さっそく試験にTRYしましょう！
最後まで解答すると、アンケート記入及びコメントが見られます

過去の成績についてはこちらを参照して下さい！

■ L-ラーニングオンライン 模擬試験 (最新版) Update:2004/12/1 ■		
試験開始 Start		Top: えり (2005/12/02 14:16)
難易度: ★★★★★		成績: 100.0%、タイム: 2分32秒
出題数: 20問	挑戦者: 2692人	
問題数: 49問	合格者: 181人	大学図書館司書として知っておいて欲しい知識を集めた問題です。全問正解者が出ることを期待しております。
合格点: 70%以上	正答率: 50.6%	
成績一覧	正答率一覧	

■ L-ラーニングオンライン 模擬試験 (累積版) ■		
試験開始 Start		Top: im (2006/07/30 14:57)
難易度: ★★★		成績: 100.0%、タイム: 2分48秒
出題数: 20問	挑戦者: 1663人	
問題数: 100問	合格者: 117人	大学図書館司書として知っておいて欲しい知識を集めた問題です。全問正解者が出ることを期待しております。
合格点: 70%以上	正答率: 53.0%	
成績一覧	正答率一覧	

“実践”に重点を置き、
大学図書館員の自己評価
再研修をはかる

2. これまでの研究活動

2-1-2. 第1期（第2フェーズ）

問題のデータベース化・図書館業務の体系化（体系別学習メニューの作成）
CMS(Content Management System)Xoopsを利用したポータルサイトの作成
<http://www.l-learning.jp/xoops/>

The screenshot shows the L-Learning System portal. A search bar is in the top right. The main navigation menu on the left is highlighted with a red box and contains the following items: Login, L-Learning, ホーム, 体系別リンク集, 体系別学習, 選書, 図書受入, 図書整理, 雑誌全般, 閲覧, 電子資料全般, 図書館システム, ILL, 参考業務, 模擬試験, 全分野ランダム試験, 体系ドリル, 問題の検索, 模擬試験ペータ, イベントカレンダー. A blue callout box points to the '体系別学習メニュー（「エルラー的図書館体系」）」 menu item. Another blue callout box points to the '模擬試験' menu item. The main content area shows a list of news items under the heading '図書館関連ニュース'.

体系別学習メニュー（「エルラー的図書館体系」）

模擬試験

図書館関連ニュース

- 11/11 16:40 英国公文書館、第一次世界大戦についてのポータル"First World War Portal"を公開 (Current Awareness)
- 11/11 16:02 【イベント】東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「未来をつくる地域の記憶」(1/11・仙台) (Current Awareness)
- 11/08 20:07 「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」および「赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ」が国立国会図書館東日本大震災アーカイブ... (Current Awareness)
- 11/08 16:11 アトラス社、「論文検索Qross」でIEEE Xploreを検索対象に追加 (Current Awareness)
- 11/08 13:47 日本出版インフラセンター(JPO)の近刊情報センターに提供された新刊点数が全配本点数の60%に (Current Awareness)
- 11/27 00:04 第3期科学技術基本計画のフォローアップ (Open Access Japan)
- 09/19 06:32 PTF統合問題に関して日本物理学会理事会よりのお知らせ (Open Access Japan)
- 09/04 13:01 OAアドボカシーチェックリスト (Open Access Japan)
- 09/03 18:51 Digital Access to Scholarship at Harvard (Open Access Japan)
- 09/03 18:47 大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ) (Open Access Japan)

2. これまでの研究活動

2-2. 第2期

📌 オープンソース Moodleを利用した、「エラー的Blended Learning」の提案

<http://www.l-learning.jp/moodle/>

※エラー的Blended Learning：テキストベースのe-ラーニングコンテンツに、音声や動画等のコンテンツ・携帯電話等のプラットフォームを融合し、ゲーム性を持たせたもの

L-ラーニング学習支援システム

コース一覧

エラー的体系別学習



レファレンスライブラリアン虎の穴



- 効果的な体系的学習の充実
- レファレンスを題材に
- グレード別学習
- 継続性

エラー的に体系別な学習をします。

レファレンスライブラリアンを楽しく育てる。

2. これまでの研究活動

2-3. 第3期

現在サービス停止中

工事中



大学図書館員による、大学図書館員のためのリポジトリの構築
Xoopsのモジュールとして動作するXooNips（オープンソース）を利用
<http://www.l-learning.jp/xoonips/>

The screenshot shows the L-learning Repository website. The header includes the logo and navigation links like 'ホーム', '分科会WWW', 'TakaQ', 'Xoops', 'Moodle', '携帯', '新着アイテム', and '新着ブログ'. There are login fields for 'ログイン名' (username) and 'パスワード' (password). The main content area is titled '大学図書館員のためのリポジトリ' and contains sections for 'FAQ', 'アンケート結果', 'XooNips検索', 'インデックスツリー', 'Public', '新着', and 'ランキング'. The 'Public' section shows a tree view with categories like 'Public(15)', 'アイテム別(5)', '主題別(8)', '業務別(1)', '所属別(1)', and '分科会(47)'. The '新着' section lists recent items with titles and dates, and the 'ランキング' section lists the most viewed items.

- 図書館業務のアーカイブ化
- 学習支援システムとしてのリポジトリ
- コンテンツ登録でリポジトリを体験



3. 今期の研究内容

3. 今期の研究内容

L-ラーニング学習支援システム研究分科会

2012-2013会員 : 7名 (正会員4名/MLネット会員2名/個人会員1名)

<メンバー>

代表 : 小田切 夕 子 (麻布大学附属学術情報センター)
金子 和 代 (早稲田大学図書館)
高橋 泰 行 (大正大学附属図書館)
村上 明 子 (桐蔭横浜大学 大学情報センター (図書館))
澁田 勝 (獨協大学図書館)
佐藤 恵 (東北学院大学中央図書館)
小山 信 弥 (関東学院大学図書館)

3. 今期の研究内容

3-1. 前期までの整理

<前期までの研究背景>

- 業務委託導入等により専任職員が関わらない業務が増加
- 実務に携わらないため経験が蓄積されない
- 図書館員同士のコミュニティ自体が機能していない



<見えてきたこと>

- 分科会という「場」での意見交換は非常に有効
⇒ 図書館員同士のコミュニケーションの重要性
- 積み重ねられない経験値を見える化するためのリポジトリ
- 「私立大学図書館協会が作るリポジトリ」のコミュニティ機能の可能性

3. 今期の研究内容

3-2. 今期のテーマ設定の背景

<メンバーの関心分野は・・・>

「リポジトリ構築・運用」が最も多い

- 業務の多様化・職員数の減少
⇒少人数で担当せざるを得ず
- 他大学図書館との情報交換・悩み事の
相談ができれば・・・

しかし
「場」がない。。

ならば！

「図書館職員の情報プラットフォームとしてのリポジトリ」
づくりの経験を継承し、全国各地の図書館員がコミットできる
新たなコミュニティを！

3. 今期の研究内容

3-3. テーマ設定

1. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討
2. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNS
(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の研究

キーワードは
「つながる」「コミュニティ」「情報共有」

3. 今期の研究内容

3-4. 情報収集・共有・発信ツールの検討

2つのテーマを実現するためには…

距離的障壁なく交流できる場所：SNS

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）[1]

個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。趣味、職業、居住地域などを同じくする個人同士のコミュニティを容易に構築できる場を提供。

[1] デジタル大辞泉, ジャパンナレッジ (オンラインデータベース),
入手先<<http://www.jkn21.com>>, (参照 2013-11-17)

ツールの検討

「情報収集・共有」に適したツール？：Facebook
「発信」に適したツール？：Twitter

幅広い層に
認知される
仕掛けを！

3. 今期の研究内容

3-5. アカウント作成



3. 今期の研究内容

3-5. アカウント作成

私図協 Lラーニング分科会
@l_learning
私図協東地区部会のLラーニング学習支援システム研究分科会です。

プロフィールを編集
1ツイート
7フォロー
7フォロワー

ツイート >
Following >
フォロワー >
お気に入り >
リスト >

似ているユーザー >

フォロー

- M.KOG @ardinduthabor フォロー中
- Y_Otagiri @otagiriy フォロー中
- Shin'ya Koyama @SKaLib フォロー中
- mameko @mameko314 フォロー中
- 村上 明子 @keenmoon フォローする

さねらないフォン!?
Click
PANTECH au 4G LTE VEGA

3. 今期の研究内容

3-5. アカウント作成

Facebook

The screenshot shows the Facebook account creation interface. At the top, there are fields for 'メールアドレスまたは電話番号' (Email address or phone number) and 'パスワード' (Password), with a 'ログイン' (Login) button. Below this, there's a section titled 'アカウント登録' (Account registration) with a sub-heading '情報の公開範囲は設定で管理できて安心です。' (You can manage the range of information you share, so you can be安心). The form includes fields for '姓' (Last name), '名' (First name), 'メールアドレス' (Email address), 'メールを再入力' (Re-enter email), and 'パスワード' (Password). There are also dropdown menus for '性別' (Gender) and '誕生日' (Date of birth), with a 'アカウント登録' (Sign up) button at the bottom. A small map graphic shows connections between people.

The screenshot shows a Facebook profile page for 'Megumi Sato'. The profile picture is a man. The cover photo features a jellyfish and a person playing a guitar. The page includes a '基本データ' (Basic information) section with details about a Facebook group: '私立大学図書館協会東地区部会 Lラーニング学習支援システム研究分科会 (通称: Lラー) による、機関リポジトリの構築・導入に関する研究ワーキンググループです。' (A research working group for the construction and introduction of institutional repositories, organized by the Private University Library Association East Area Chapter Learning Support System Research Sub-committee (commonly known as L-Learning)). The page also shows a list of recent group activities and a 'メンバー' (Members) list.

The screenshot shows a Facebook post from '高橋 泰行さん' (Takahashi Taikei). The post text reads: '高橋 泰行さんが説明を更新しました。私立大学図書館協会東地区部会 Lラーニング学習支援システム研究分科会 (通称: Lラー) による、機関リポジトリの構築・導入に関する研究ワーキンググループです。 (活動期間は2014年3月までを予定。ただし、状況によって継続の可能性あり) [2012/2013期の研究内容] リポジトリ担当者支援コンテンツの作成をテーマに、リポジトリの構築と運' (Takahashi Taikei updated the explanation. This is a research working group for the construction and introduction of institutional repositories, organized by the Private University Library Association East Area Chapter Learning Support System Research Sub-committee (commonly known as L-Learning). The activity period is planned for March 2014, but continuation is possible depending on the situation. [Research content for the 2012/2013 period] The theme is the creation of support content for repository managers, and the construction and operation of repositories).

3. 今期の研究内容

3-6. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討

検討にあたっての要因分析

- コンテンツ作成のノウハウや議論はDRF（デジタルリポジトリ連合）で充分になされている（DRF Wiki, DRF ML）
- MLは情報量が多く、必要な情報が埋没しがち
- DRFのMLに参加していない人、議論についていけない初心者 の存在

3. 今期の研究内容

3-6. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討

リポジトリ構築を検討中の大学を主な対象とし、導入事例などのコンテンツを作成

⇒Facebookのグループ機能を利用

【グループ名】リポジトリWG（私大図協_L-ラーニング分科会）

【設定】非公開、「情報」にグループ情報、参加方法などを明記

【参加方法】まずはFacebookに登録。上記グループにアクセス

【参加承認】管理人権限を分科会メンバー全員に付与

※夏期集中研究会（2012年8月）においてグループメンバーのみでテスト運用

3. 今期の研究内容

3-6. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討

Facebookグループ

「リポジトリWG（私大図協_L-ラーニング学習支援システム分科会）」

Facebookグループ「リポジトリWG（私大図協_L-ラーニング学習支援システム分科会）」のスクリーンショット。投稿は高橋 素行 (Takahashi Soken) によるもので、2012年9月7日に投稿された。内容は、JAIRO Cloudの導入に関する研究ワーキンググループの活動について、および、来年度からJAIRO Cloudに参加予定であることに関するものである。

高橋 素行 1月10日 (木) のN I Iで開催されたJAIRO Cloudの説明会に行ってきました。関東圏内の大学が多かったですが、それ以外の地方の大学も多かったです。まだ構築未定の大学が多いようですが、やはり当面無償化というところで、前向きに検討している大学が多い印象を受けました。ちなみに、本学では早ければ、来年度からJAIRO Cloudに参加予定です。
1月17日 13:12 - いいね!

高橋 素行さんが説明を更新しました。
私立大学図書館協会東地区部会 L-ラーニング学習支援システム研究分科会 (通称：Lラー) による、機関リポジトリの構築・導入に関する研究ワーキンググループです。(活動期間は2014年3月までを予定。ただし、状況によ

3. 今期の研究内容

3-6. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討

スレッド構成

【答申・方針】

- ・ 文部科学省
- ・ 自己点検評価

【補助金】

- ・ CSI
- ・ CSI 以外の実例

【学内的な手続き】

- ・ どのような手続き
- ・ 準備期間
- ・ 用意した資料

【運用規程】

- ・ いつまでに定めたか
- ・ 内容

【コンテンツ】

- ・ 収集範囲：教材まで載せているのか、
- ・ 収集方法
- ・ コンテンツ掲載の申請書事例
- ・ 電子化：PDF,OCR
- ・ 外注

【広報：開始前】

- ・ 広報実例
- ・ 効果のあった手法

【広報：開始後】

- ・ コンテンツ収集のための
- ・ 学外アナウンス
- ・ 継続的発展のためにやっていること

【著作権】

- ・ 参照した資料
- ・ 出版社への問い合わせ文例（和文・英文）

【システム】

- ・ 管理・運用体制
- ・ 登録作業の流れ

【ベンダー】

【参考文献・レビュー】

【雑談・Q&A】

【自己紹介】

3. 今期の研究内容

3-6. 機関リポジトリ構築支援コンテンツの検討

発信・展開

広報・発信ツール : Twitter

情報

発信

誘導

参加

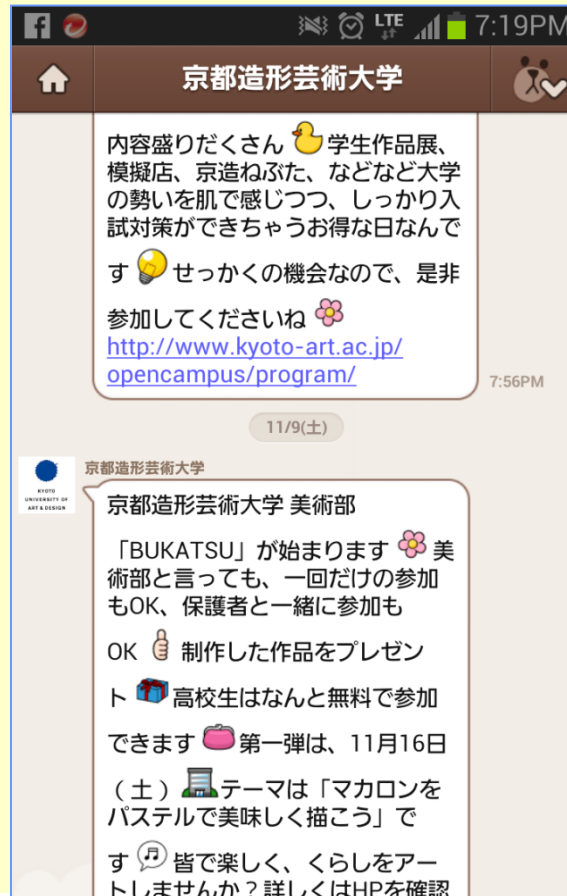
コミュニティ : Facebook



3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

そのほかのSNS : LINE



3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

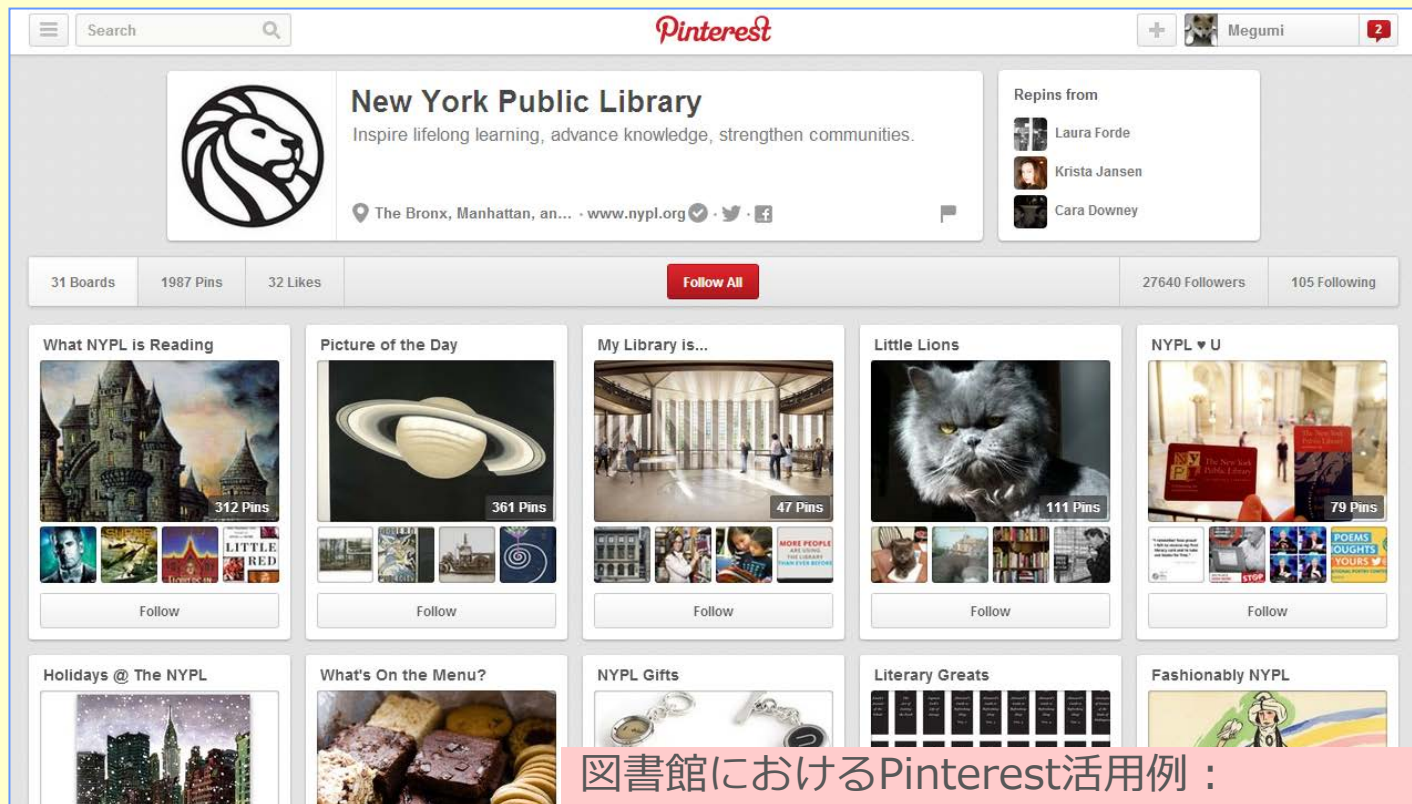
そのほかのSNS : Google+



3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

そのほかのSNS : Pinterest



図書館におけるPinterest活用例：
ニューヨーク公共図書館 (NYPL)

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

そのほかのSNS : Tumblr

東京藝術大学附属図書館

「藝大版！読書のススメ」展

5日前 「図書館だより」連載中 先生方のおススメ本

東京藝術大学附属図書館のブログ

東京藝術大学附属図書館について

RSS
ARCHIVE

Tumblr post content: A photograph of a book display stand in a library. The stand is filled with various books and pamphlets. A sign at the top of the stand reads 「藝大版！読書のススメ」展. The books are arranged in a way that is easy to browse.

Tumblrを利用したブログ：東京藝術大学図書館

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

SNSに近い情報共有ツール：サイボウズLive

サイボウズLive

東北地区大学図書館協議会 大学教育部会

グループ内を検索する

イベント

未完了ToDo 6件
うち期限切れToDo 5件
予定はありません。

参加メンバー + 追加する

メンバーへのお知らせ

タイムライン 分類表示 更新履歴を表示 未読のみ | すべて

掲示板

- 第68回協議会総会 部会発表について (ご報告) 10/1 (火)
- 協議会総会発表資料 (部会活動報告) 9/25 (水)
- 部会活動へのお礼 9/24 (火)
- アンケート集計_図書館対象 (第二次調査) 9/6 (金)
- 連絡・雑談トピック 8/28 (水)
- 緊急連絡用トピック 8/12 (月)
- 第5回部会日程 8/12 (月)
- アンケート問い合わせ内容&回答_二次調査 8/7 (水)
- アンケート依頼文書_図書館向け二次調査 6/28 (金)
- 図書館向け二次調査編集用トピック 6/27 (木)
- 図書館向け二次調査発送スケジュール 6/27 (木)
- 6月1日大学教育学会について 5/31 (金)
- アンケート集計 (協議会メール送付用) 5/29 (水)

新しいグループをつくる(無料)

投票受付中のアンケート

- 第2回部会開催日程について 7 / 7名
- 第3回部会開催日程について 5 / 7名
- 6/1 (土) 大学教育学会参 5 / 7名
加可否について
- 参加費・交通費、協議会 3 / 7名
補助を受けるなら貴学で
はどちらが都合がよいて
すか?
- 臨時部会日程について 4 / 7名
- 第5回部会 3 / 7名

リンク集

共有リンクはありません。

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

SNSに近い情報共有ツール：Wiki

Digital Repository Federation
DRF wiki

[List of pages | Search | Recent changes | Help]

お知らせ

- Open Access Week 2013のページを作成しました！
- 寄付の受け付けを開始しました。(平成25年8月8日)
- 学位規則改正についての情報まとめサイトを作成しました！(平成25年3月1日)

DRF schedule

2013年 11月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	11月 1日	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

予定を表示するタイムゾーン: 東京

Digital Repository Federation

デジタルリポジトリ連合(Digital Repository Federation)では、メーリングリストや本ウェブサイト、集合イベントなどでの情報共有、意見交換を通じ、国内における機関リポジトリの発展とオープンアクセス思潮の興隆につとめています。第二期活動(平成22~24年度)では、ここ(第三期活動課題)で挙げるテーマについて、学術機関リポジトリの構築・運営にあたっての共有の課題として取り上げ、DRFという広域コミュニティを基盤として、課題解決に取り組んでいます。

公開メーリングリスト

- 機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリストの過去記事

Wikiの例 (DRF : デジタルリポジトリ連合)

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

LINEの可能性に着目

<LINE> [2]

スマートフォンなどで無料の通話、メールができるアプリ。インターネット事業を行うNHNジャパン（本社・東京都渋谷区）が2011年6月に公開した。LINEがインストールされたスマートフォン同士では、パケット通信を利用した音声通話やチャット形式のメール送受信が可能で、パケット定額プランに加入していれば、通話料金を気にせず電話ができる。

[2]情報・知識 imidas, ジャパンナレッジ (オンラインデータベース), 入手先<<http://www.jkn21.com>>, (参照 2013-11-17)

なぜ LINE?

ユーザー数の爆発的増加

非常時に使えるツール

分科会メンバーの多くが未体験

学生ユーザーが多い[3]

大学生のSNS利用率

LINE : 90.7%, Twitter : 87.7%,
Facebook : 66.2%

[3] 「大学生の友人関係に関する意識調査」(公益社団法人東京広告協会2012年10月) <http://www.tokyo-ad.or.jp/pdf/FUTURE2012.pdf>
マーケティングを学ぶ学生団体「大学生意識調査プロジェクト (FUTURE2012)」により首都圏の大学に在籍する大学生1,029名 (有効回答数800) を対象に実施

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

LINEのしくみ - アカウント作成



電話番号で登録



Facebookアカウントで登録

いずれも登録情報がLINEのサーバーに送られる

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

LINEのしくみ - 「友だち」

1. 電話帳に登録している人と「つながる」

スマートフォンの電話帳に登録している人の中でLINEユーザーがいた場合、LINEの中で「友だち」となり、連絡を取ることができるようになる



LINEホームページ「安心安全ガイド 保護者のみなさまへ」より < <http://line.naver.jp/safety/ja/parents.htm> >, (参照 2013-11-14)

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

LINEのしくみ - 「友だち」

2. 電話帳に登録していない人と「つながる」

- 1) LINE IDで検索
- 2) ふるふる (GPS機能を利用)
- 3) QRコード読み取り

1. LINE IDで検索

アカウント名とは別に、任意で設定できるLINE IDを検索することができます。(LINE IDとは？は後述)



2. ふるふる

「ふるふる」とは、位置情報(GPS機能)を利用して、ふるふる機能を起動させたときに目の前にいる人を検出する機能です。



3. QRコードの読み取り

各アカウントに対して発行されるQRコードを読み取る(または読み取ってもらう)ことで友だちに追加できます。



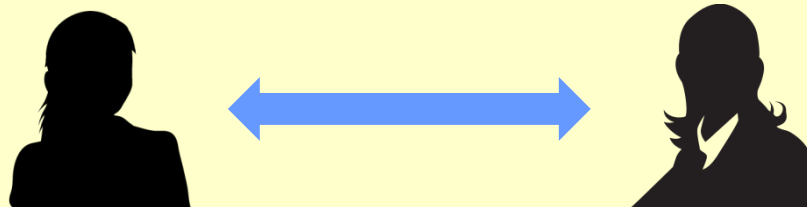
LINEホームページ「安心安全ガイド 保護者のみなさまへ」より < <http://line.naver.jp/safety/ja/parents.htm> > , (参照 2013-11-14)

3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

LINEにおけるコミュニケーションの形態

1対1の「トーク」



複数のメンバーに連絡を取ったり
情報を共有する「グループトーク」



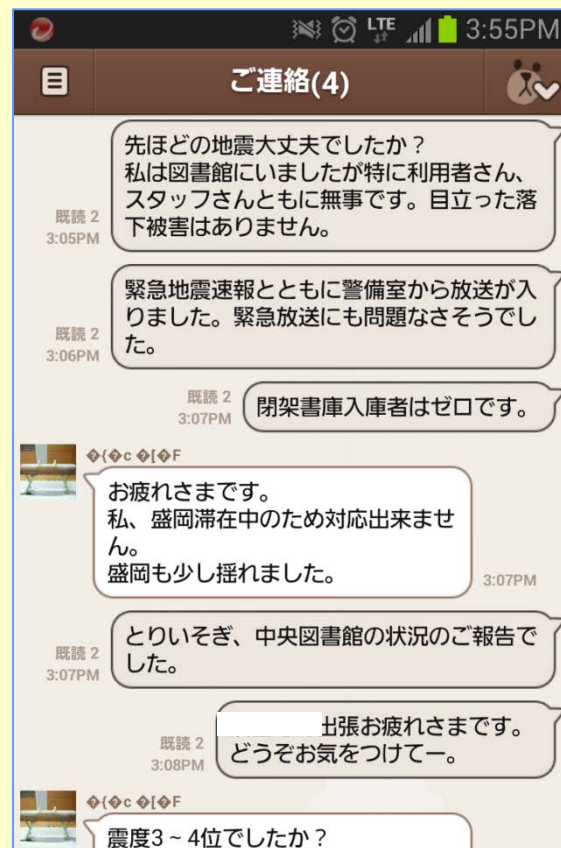
3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

LINE「グループトーク」

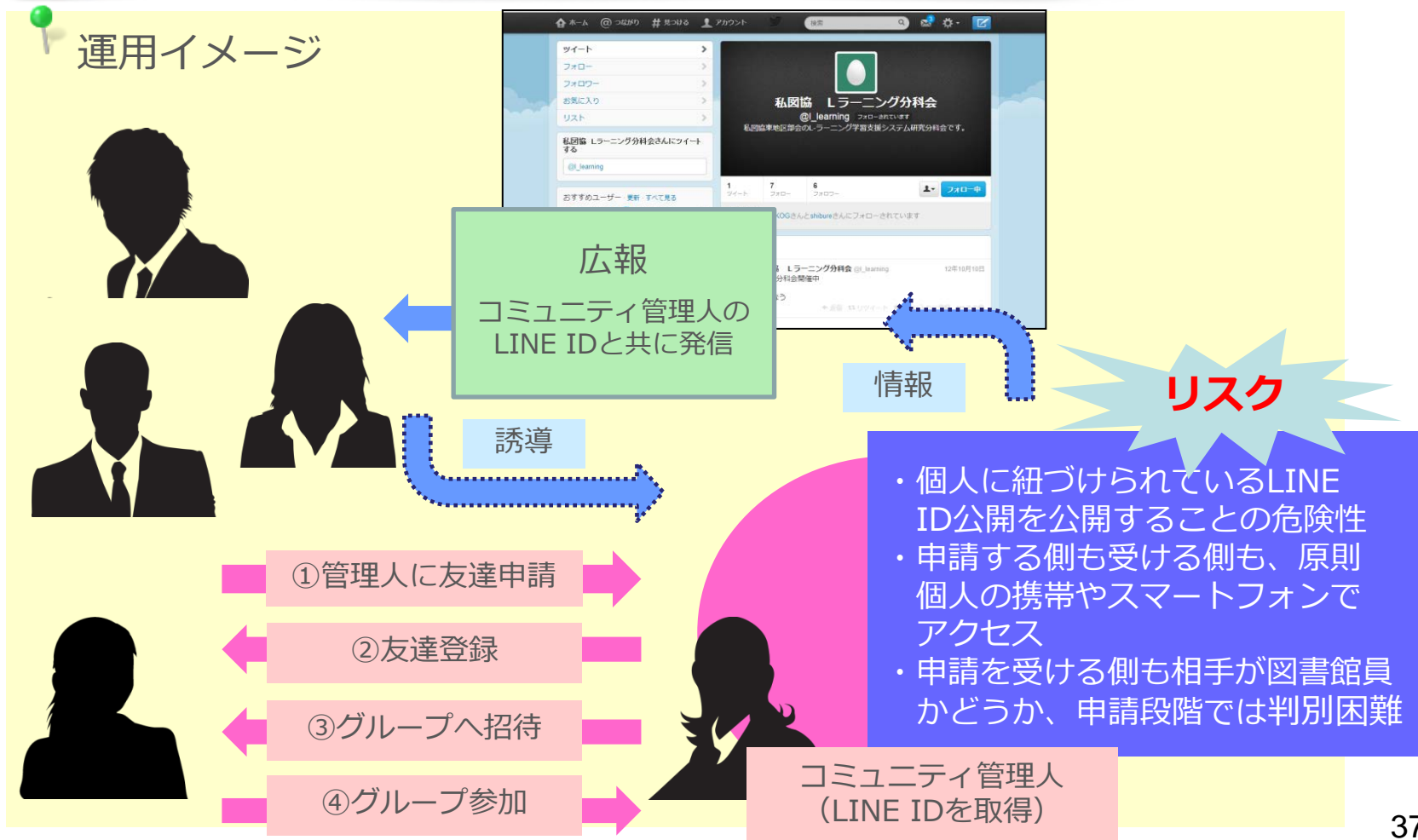
例) 図書館休日開館日の地震発生時に職員4名で行った情報交換の記録

この機能を利用すれば
コミュニティづくりが可能?



3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究



3. 今期の研究内容

3-7. 大学図書館員のコミュニケーションツールとしてのSNSの研究

新たなサービスと新たなリスク

IPA Information-technology
Promotion
Agency, Japan

第 13-35-302 号
2013 年 11 月 1 日
独立行政法人情報処理推進機構

今月の呼びかけ

「 SNS の友達申請に注意！ 」
～ Facebook で乗っ取り被害に遭わないために ～

IPA Information-technology
Promotion
Agency, Japan

第 13-33-300 号
2013 年 10 月 1 日
独立行政法人情報処理推進機構

今月の呼びかけ

「 インターネットサービス利用時の情報公開範囲の設定に注意！ 」

リスク

独立行政法人情報処理推進機構技術本部 セキュリティセンター

< <http://www.ipa.go.jp/security/txt/2013/11outline.html> > (参照 2013-11-18)

< <http://www.ipa.go.jp/security/txt/2013/10outline.html#5> > (参照 2013-11-18)

3. 今期の研究内容

3-8. Facebook, Twitter, LINEの特徴

1) Facebook

特徴		○:メリット ×:デメリット
アカウント登録	原則実名	○:「炎上」事例が少ない ○:知人を見つけやすい ×:実名公表のリスク(個人情報)
つながり(友達)	双方の同意のもとに成立(友達申請⇒承認)	○:クローズドな環境下で安心して交流できる ×:自分の投稿や写真を友達に「共有(シェア)」された場合、第三者に閲覧される場合がある ×:なりすましアカウント等による個人情報の収集
情報公開範囲	フレキシブルに設定できる	○:情報の公開範囲を自身で設定できる(「全体に公開」「友達のみ公開」「特定の友達を除いた友達に公開」など)
投稿文字数	上限なし	○:写真・動画も投稿可(リンク・シェア)
情報の拡散性	中	○:「シェア」によって拡散 ×:情報公開範囲の設定によっては自分の投稿を友達にシェアされ、第三者に閲覧される場合がある
コミュニティ	・コミュニティづくりが容易 ・グループウェアとしても利用可能	○:グループ機能により、特定のテーマについて意見交換できるコミュニティづくりが可能 ○:グループにはファイルアップロード機能やイベント管理機能により、情報共有用のグループウェアとしても活用できる

3. 今期の研究内容

3 - 8 . Facebook, Twitter, LINEの特徴

2) Twitter

特徴		○: メリット ×: デメリット
アカウント登録	匿名が多い	×: 匿名のため多種多様なユーザーが存在
つながり(フォロー)	相手の同意は不要(非公開アカウントは承認制)	○: 不特定多数への発信に適している
情報公開範囲	ツイート全体の公開・非公開の選択のみ可能	○: 非公開アカウントの投稿は自分をフォローしている人のみ閲覧可能 ×: 公開アカウントの投稿は、フォローしなくても閲覧可能
投稿文字数	140文字まで	○: 本音が出やすい ×: 気軽に書き込めるため、誹謗中傷・犯罪行為の公開等の「炎上」が起こりやすい
情報の拡散性	高	○: リツイート(誰かのつぶやきを自分のフォロワーに見せる機能)により、情報が素早く大量のユーザーに拡散される ⇒災害時の活用(例: 東日本大震災) ○: 情報の流れが速いため、広報ツールに適している
コミュニティ	グループ機能なし	○: 1対1のコミュニケーションを深めることができる ×: 複数人で情報を共有・議論することが難しい
その他		○: リアルタイムなコミュニケーション(通常の会話に近い感覚) ×: 情報が多く、タイムラインの流れが速い(必要な情報を逃す)

3. 今期の研究内容

3-8. Facebook, Twitter, LINEの特徴

3) LINE

特徴		○:メリット ×:デメリット
アカウント登録	電話番号・Facebookアカウントのいずれかで設定	×:匿名のため多種多様なユーザーが存在
つながり(友達)	・携帯電話のアドレス帳との紐づけ(初期設定) ・「LINE ID」で検索し友達申請	○:電話・メールアドレスで紐づけられるので、現実世界で身近な人とのコミュニケーションをより深めることができる ×:アドレス帳自動同期により、意図しない人と友達になってしまう ×:アドレス帳との同期を行わない場合「LINE ID」で紐づけされるが、IDが流出すると悪用される危険性がある
情報公開範囲	友達にのみ公開	○:「友達=身近な人」であるため、安全性が高い
投稿文字数	500文字まで	○:テキストのほか、画像・動画・音声・スタンプ(イラスト)も投稿可
情報の拡散性	低	※企業広報用アカウント「LINE@」(有料)では、友達申請のあったユーザーに対しクーポンやセール情報等を発信することができる
コミュニティ	複数人によるグループトークが可能	○:身近な人同士でコミュニケーションを深めることができる ×:「LINE ID」を公開して作成するグループには素性の分からない人も入るため、荒らし行為が起こることもある
その他		○:リアルタイムなコミュニケーション(通常の会話に近い感覚) ○・×:送ったメッセージを相手を読んだかが分かる(既読機能)

3. 今期の研究内容

3-9. 大学・図書館におけるSNSの活用例

Twitter



広報ツールとして

3. 今期の研究内容

3-9. 大学・図書館におけるSNSの活用例

Facebook



図書館公式Facebookページ



国大図協海外派遣事業Facebookページ
国立大学図書館協会海外派遣事業の情報発信用



大学職員情報交換用コミュニティ
Facebookグループ「Teamダイガク夜話」

3. 今期の研究内容

3-9. 大学・図書館におけるSNSの活用例

LINE@

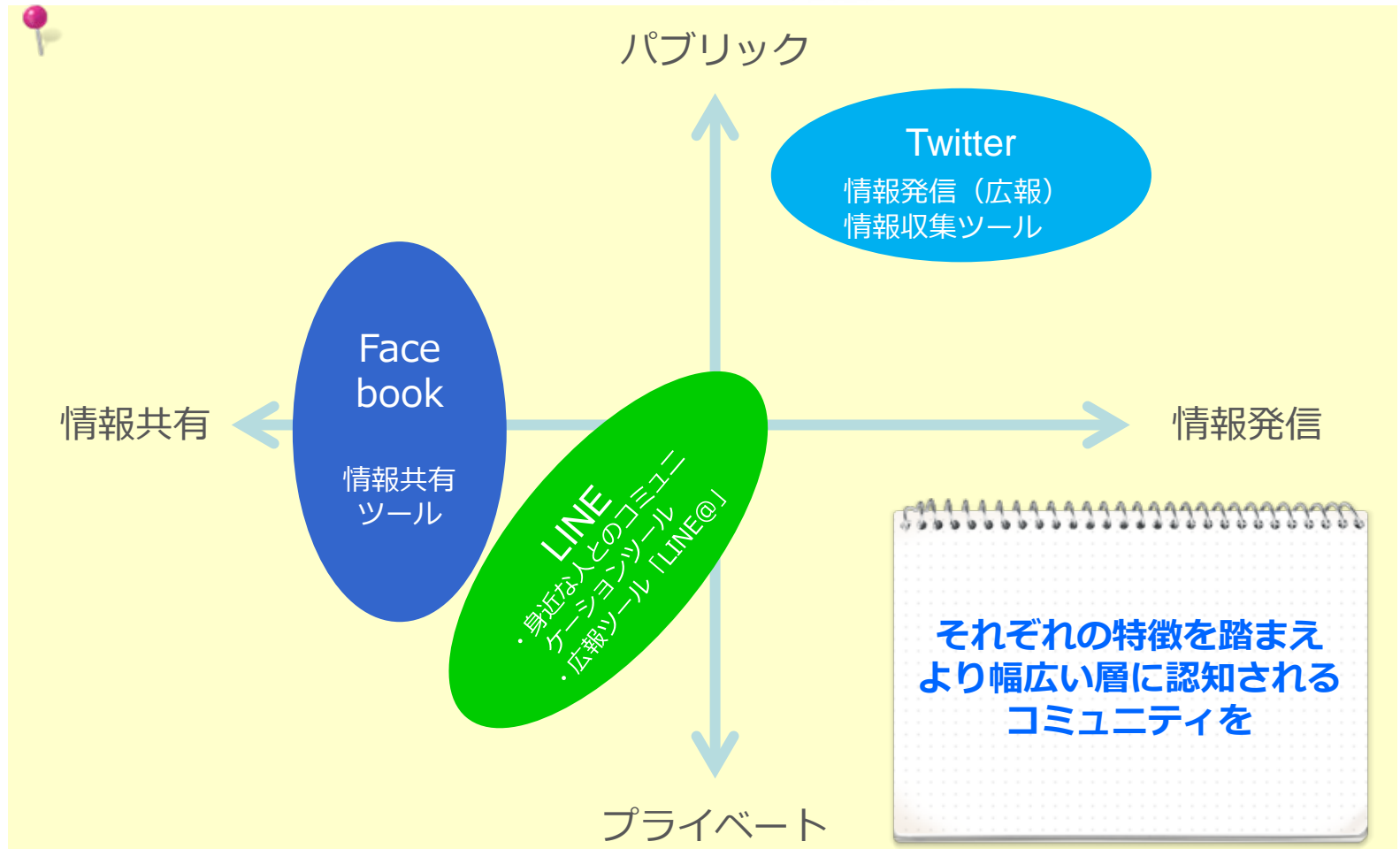
The collage displays several LINE@ accounts for universities:

- 敬和学園大学 @keiwacollege**: 242 followers. Location: 新潟県新潟市東区 1270. Website: <http://www.keiwa-c.ac.jp/>
- 芝浦工業大学 @shibaurait**: 3637 followers. Location: 東京都江東区 豊洲3-7-5. Website: <http://www.shibaura-it.ac.jp>
- 日本福祉大学 入学広報部 @n-fukushi_kouhou**: 1585 followers. Location: 愛知県知多郡美浜町大学東田 会下前35-6. Website: <http://www.n-fukushi.ac.jp/>
- 芝浦工業大学 @tokyokeizaiuniv**: Profile for the Shibaura Institute of Technology.
- 国大学 @toyogakuen**: 1045 followers. Location: 東京都文京区本郷 1-26-3. Website: <http://www.tyog.jp/>

LINE@による大学広報

3. 今期の研究内容

3-10. 新たなコミュニティのかたち



3. 今期の研究内容

3-1-1. 課題

- 本来SNSが持っている「つながり」を広げる検証
⇒ (今期) アカウント作成・メンバー間のテスト的なやりとりのみ
- 実践例を踏まえた、あらたな活用シーンの考察・提案
(複数のツールを組み合わせた活用方法の検討を含む)



4. 今後の展望

～大学図書館員のコミュニティづくりへのSNSの活用～



4. 今後の展望

～大学図書館員のコミュニティづくりへのSNSの活用～

4-1. 議論と試行から見えてきたこと

- 職員同士の意見交換の場の必要性
- ツールの存在、仕組みの理解不足 ⇒イメージ先行（例：SNSは危険なもの）
- 互いに教え合い、学び合うことから新たな発見が生まれる
⇒情報リテラシー教育、アクティブラーニングの実践にも
- 個人情報漏洩に対する知識と自衛の重要性
- O2O[4]の重要性
- LINE@（ビジネス向け広報用アカウント）などの特徴的なツールの可能性
- 目的に合わせ、ツールの併用もあり
- 多様なツールを持つことにより、対象者への多角的なアプローチが可能に
- 潜在的なニーズや問題点を発見できるツール
⇒非日常的なコミュニケーションの場から生まれる「本音」の言葉や思い
- 緊急時の通信手段として活用できる

[4] : Online to Offline : オンラインでの情報発信によりオフラインの活動に影響を与えること

4. 今後の展望

～大学図書館員のコミュニティづくりへのSNSの活用～

4-2. コミュニティから、一歩前へ！

それぞれの特徴を知ることによって、「図書館情報の外部への情報発信・共有ツールとしてのSNS」の可能性を見出す



図書館員がSNSを実際に使うことで、各自の所属図書館における新しいサービス展開を考えることができる

＜大学図書館員のSNSに対する取り組みの例＞

“南洋理工大學（Nanyang Technological University : NTU）では、図書館の職員が全員ブログやFacebook, Twitterなど何らかの形で利用者とのコミュニケーションに関わることとし、そのための研修も行っている。ライブラリアンが教員にブログの使い方をアドバイスし、研究成果の発信につなげている例もある。”

天野絵里子. シンガポールで「未来の図書館」を考える : IFLA WLIC 2013. カレントアウェアネス-E. 2013, E1479 <<http://current.ndl.go.jp/e1479>> (参照 2013-11-17)

4. 今後の展望

~大学図書館員のコミュニティづくりへのSNSの活用~

4-2. コミュニティから、一歩前へ!


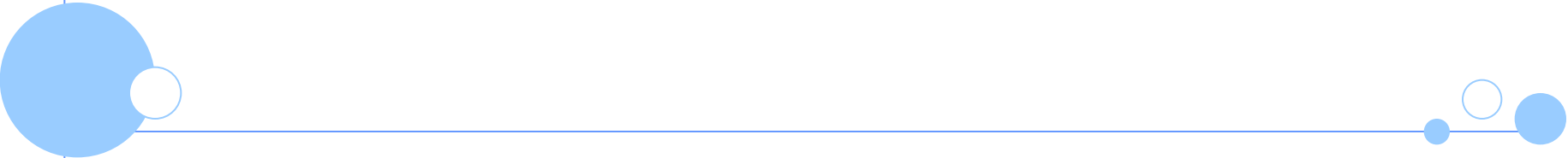




図書館員のリテラシーや
スキルアップのための学修支援システム、
SNSの活用に関心のある方

私たちと一緒に活動してみませんか？

L-ラーニング学習支援システム研究分科会では
そんなあなたをお待ちしています！



ご清聴
ありがとうございました